

当クリニックにおけるCOPD
(chronic obstructive pulmonary disease) の
病名認知度調査結果の検討

大久保内科呼吸器科クリニック
○深澤一裕 大久保修一

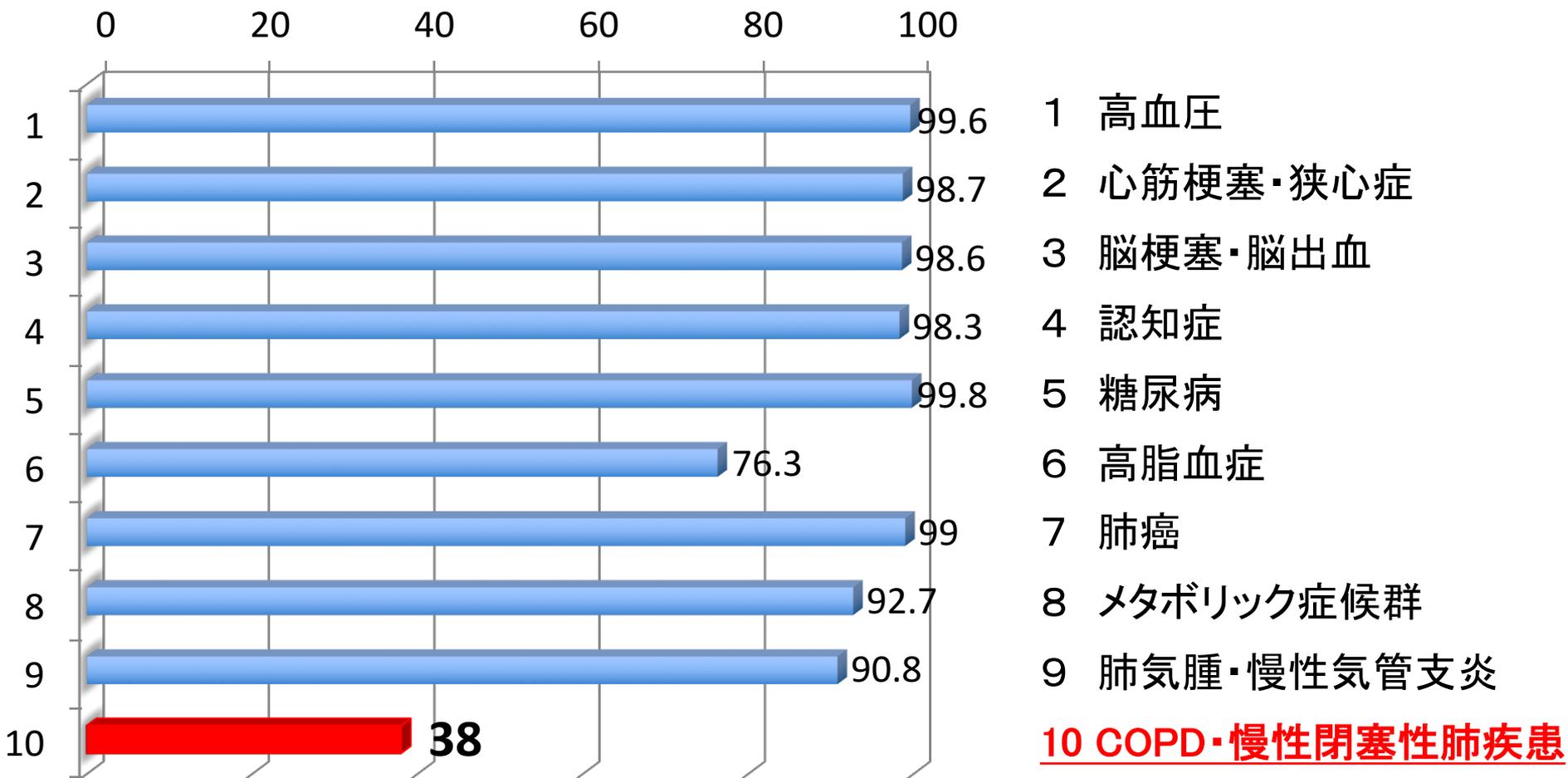
背 景

- 厚生労働省が策定した「二十一世紀における第二次国民健康づくり運動(健康日本21)」に対処すべき生活習慣病のひとつとしてCOPDが上げられている。
- 2000年の全国疫学調査における40歳以上の日本人のCOPD有病率は8.6%、患者数は530万人と推定されているがその疾患名の認知度は低いとされている。
- 健康日本21ではCOPDの認知度を現状の25%から平成34年までに80%まで上げることを目標にされた。

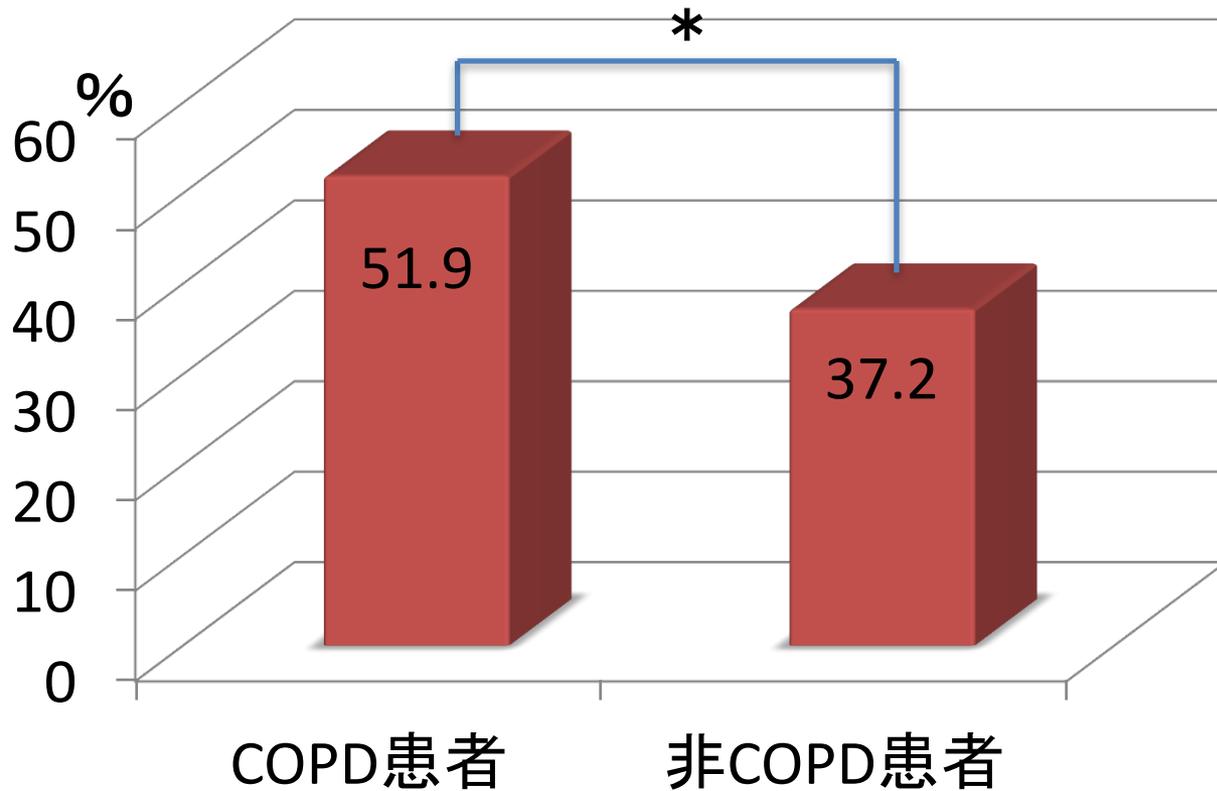
対象と方法

- 2014年10-11月に当クリニックを受診した患者に病名認知アンケート調査を行い1360人から回答を得た。
- 調査対象の1360人は男性545人、女性815人であった。
- アンケートは成人病の各疾患名とCOPDの認知度調査と、COPDがどのような疾患であると認知されているかを調査した。

以下の病名をご存じですか

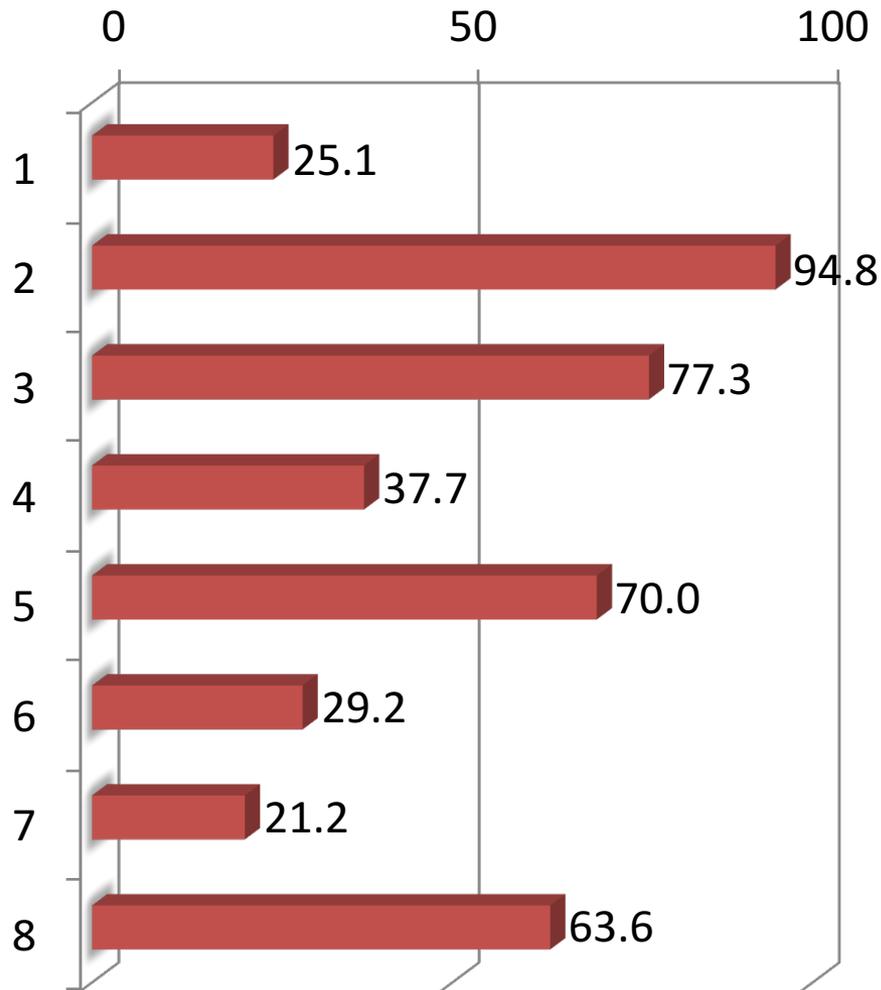


COPD患者と非COPD患者では COPD認知度に有意差がありました



* p=0.0124

COPD・慢性閉塞性肺疾患とはどのような病気ですか？



1 名前のみ知っている

2 喫煙と関係している

3 息切れ、咳、痰が主症状である

4 症状は年齢とともに進行する

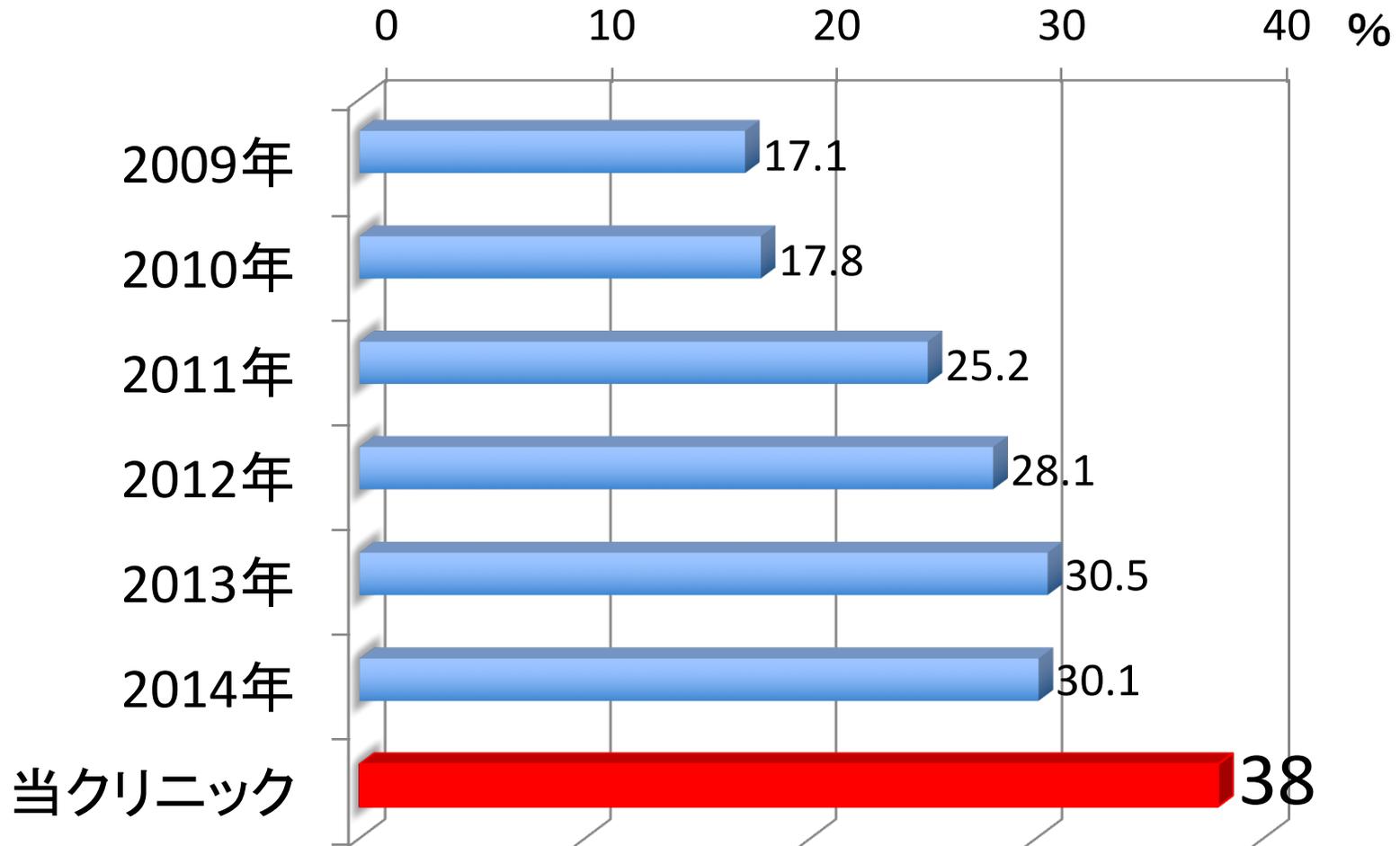
5 進行すると日常生活に深刻な影響を及ぼす

6 急性増悪を起こすことがある

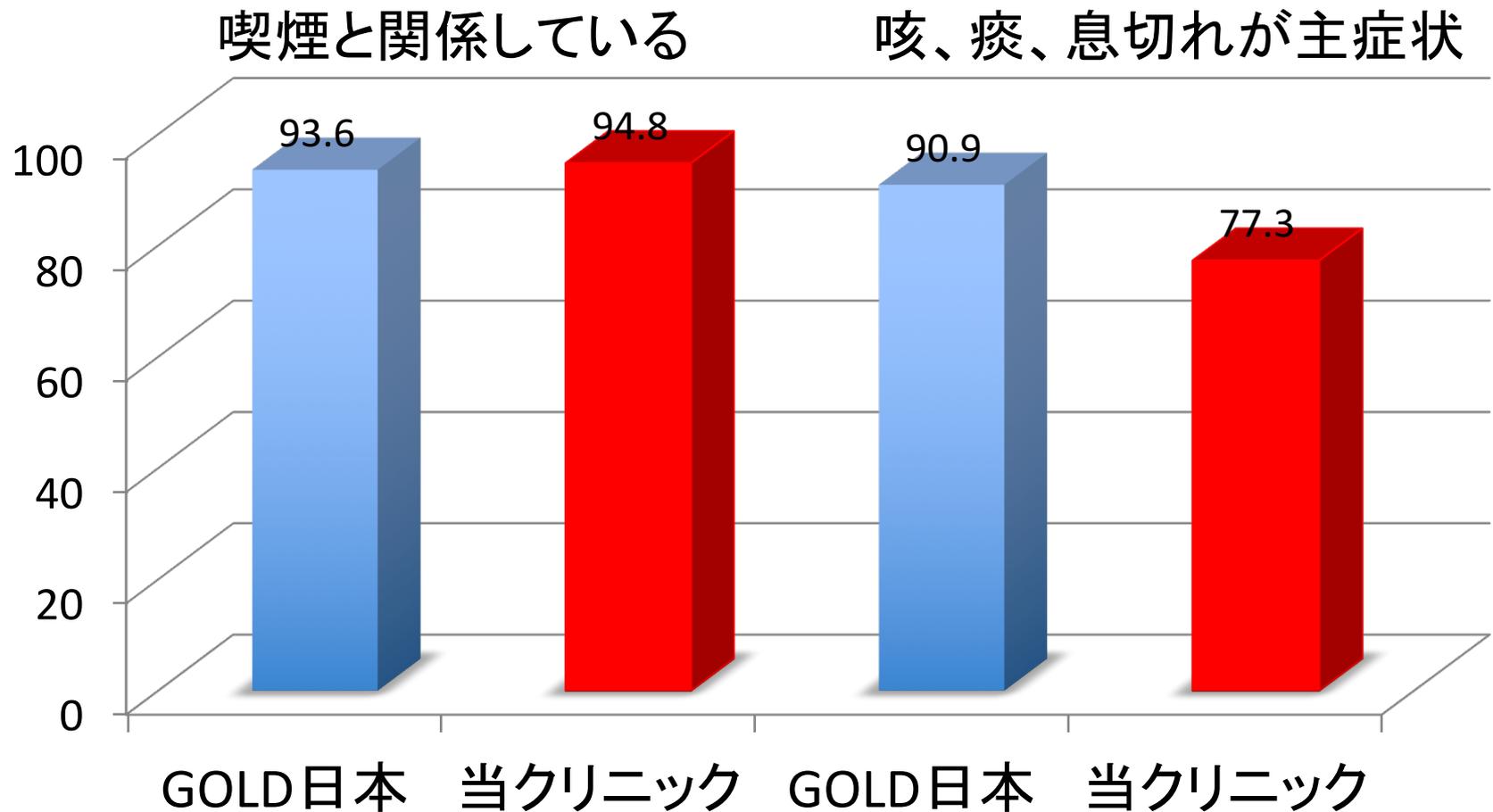
7 肺だけでなく全身の病気である

8 早期発見、早期治療で進行を遅らせることができる

GOLD日本委員会の COPD認知度調査



2014年GOLD日本委員会 COPDとはどんな病気？



結 語

- COPDは喫煙と関係する予防可能な生活習慣病であるという観点から、COPDの認知度を上げる努力が必要とされる。
- 今回の調査では呼吸器に専門性のある当クリニックでも38%の認知度で、全国調査をわずかに上回った程度であった。
- 診療中の患者への説明に横文字のCOPDより肺気腫などの日本語名を使用することが多かったことも原因と考えられた。